

集団のなかで安定した生活を送れる子

3年生になった自閉的傾向の強いH児は、4月当初、クラスがえのため突然、教室も級友も担任も変わるといふ状況におかれた。突然の環境の変化に対応しきれないまま教室に全く入ろうとせず、学校内巡りを繰り返した。また、自分の思いが通らなかつたり、不快を感じると、一日のうちにパニックを何度も繰り返して起こした。そのようなH児との取り組みについて述べてみたい。

1. H児の実態

●S. 55. 2. 11生 男子 小学3年生

●自閉症

(1) 遠城寺式乳幼児発達診断検査

発達	0	1	2	2	2	2	3	3	3	4	4	4	4
年齢	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
項目	0	9	0	3	6	9	0	4	8	0	4	8	
移動運動													
手の運動													
基本的習慣													
対人関係													
発語													
言語理解													

(s63.9)

(2) ムーブメント教育プログラム アセスメントプロフィール表

	7	6	5	4	3	2	1
7	61-72	56-67	51-62	46-57	41-52	36-47	31-42
6	49-60	44-55	39-50	34-45	29-40	24-35	19-30
5	37-48	32-43	27-38	22-33	17-28	12-23	7-18
4	25-36	20-31	15-26	10-21	5-16	0-11	-4-7
3	13-18	8-13	3-8	-2-3	-7-2	-12-3	-17-8
2	1-12	-4-7	-9-2	-14-7	-19-12	-24-17	-29-22
1	0-6	-5-1	-10-4	-15-9	-20-14	-25-19	-30-24
項目	運動	感覚	認知	言語	社会性	対人関係	対人関係

● (1) (2) の発達検査から

- ・ 全般的に2才半～4才の発達段階にあると思われる。
- ・ 運動、感覚の分野に比べ、言語、社会性に劣っている。
- ・ 潜在する力を充分発揮できていないということも考えられる。

● 日常の行動特徴 (4月～5月)

- ・ 4月当初、友達とうまく関われない。
(例) 自分の持っていた電池を友達にさわられる→パニックなど
- ・ 2週間程後、全く教室に入らなくなり、廊下で着替えをして、そのまま学校内巡りをするといった日が続く。
- ・ 大体は、校庭にいることを好む。
- ・ 「～がこぼれた」「まがっている」「～したいのにできない、させてもらえない」など、思いの通りにならないと、「キー」という大声でパニックを繰り返す。
- ・ コマーシャルの文句などは、よく口にするが、意味のある自発語は安定した状態では特定のものがある程度出るほかはなかなか出ず、要求が相手にうまく伝わらないため、パニックを起こす。
- ・ 動くことを楽しんでいるが、遊びが偏りがちである。

- ・言語の模倣はできるが、問いかけに対してもオーム返しである。
- ・安定状態では、言語指示がよく通る。

2. 指導の方針

1の様な実態から、H児にとって必要なのは「集団」(友達や先生)の中で、安定した生活が送れることであると考え、個人目標と定めた。そのためにも、しっかり担任との間にラポートを築くことを大切に、そのうえで個人目標に向かって次のような力をつけさせたいと考えた。

- 自信、意欲、挑戦力
- 友達や先生と関わりを持つようとする力
- 自分の思いを言葉で表現する力
- 自立心

これらの力をつけていくために

●ムーブメント理論

●実態調査からも明らかなように、運動面に比べ、言語・社会面に劣っており、より優れた運動面を充実させることによって、言語・社会面を引き上げていこうとする考えから指導の方針を

- ①未経験のからだの動きを多く経験することによって、動くことを楽しむこと
- ②友達や先生との関わりを増やし、集団の中で安定した生活を送ること
- ③語彙数を増やし、「～は～です」「～は～を～する」という表現で自分の思いを表現すること
- ④自分のことは自分でしようとすることの4つとした。

①については、未経験のからだの動きを楽しみながら意欲的に経験していく中で機能的にからだが発達し、それが脳(特に言語野)への刺激となる。同時に、言語指示を多く取り入れることによって言語理解能力が高まり、自分の思いを言葉で表現する力となり、安定した生活へとつながるという指導仮説をたてた。また①②③④全てに関して合同体育、合同音楽、生活単元学習をはじめとして、日常生活のあらゆる場面を通して指導することとした。

次に、①～④について各々の指導の実際の例を示すことにする。

3. 指導の実際

①●リズム・サーキットにおける実践

月	よ う す	手 だ て
9月	・基本の運動ではうさぎ以外はしようとせず、角の方で覚えているか、全く関係のないことをしている。サーキットになると、売れに乗って参加できるが、途中止めがおおい。	・うさぎの場面で、しっかりと動きを楽しませる。すぐ場でうさぎ以外の動きをしてみせたり、KGMの歌を歌ったりする

12月	<ul style="list-style-type: none"> ・流れを覚えひとつずつ参加する動きが増える。 ・人の動きを見てそれを真似しようとするのがおおくなる。 ・サーキット以外の場面(教室や校庭)でも、サーキットの動きを楽しんでいる。 ・BGMを口ずさみながらサーキットの動きを楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム・サーキットの流れに変化が加わる。 ・ひとつひとつの動きに更に段階上の目標を定める。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめはややとまどいが見られたが、比較的すんなりと新しい動きを取り入れた。 ・どんぐり、トランポリン等マイペースのリズムから抜け出そうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりの歌を横で歌いながらどんぐりをさせたり、トランポリンでタンポリンのリズム打ちにあわせてとばす等して自己のリズムから抜け出させることをねらっている。

●遊びにおける実践

月	よ う す	手 だ て
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・じっくりひとつの遊びに集中したり、遊具の楽しさを味わうことなくただ何となく遊具から遊具へ移動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずラポートをとることを目的に、担任と一緒に遊ぶ機会を増やす。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車乗りに興味をもち遊び=自転車乗りである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で遊ぶ機会を増やす。 ・ひとつの遊具でも一緒に遊ぶ中で遊び方を工夫させる。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・シーソー、うんてい、アスレチック、芝山、砂遊び等遊びが広がり、自分から遊びを選んで集中して遊ぶ。 ・石とび、丸太渡り等難しい技に挑戦している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんどん外へ連れ出し、挑戦場面を作り出し、励ましを思いっきり挑戦させる。

②●日常生活における実践

月	よ う す	手 だ て
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と関わることを嫌がり、教室にも入らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まず担任とのラポートを形成する。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・教室に入るようになるが、やはり友達とうまく関われないためしばしばパニックを起こす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊学習、合同学習等で友達や先生と関わる場面(手をつなぐ、ダンスやグループ対抗リレー等)や協力しななければならないような場面を増やす。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と自然に手がつながるようになる。 ・パニックの回数が減少し、集団の中に自分から入っていつたり、逃げないで友達と玩具の奪い合いをしている姿も見られるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との自然との関わりに過度に干渉せず、耐える力もつけさせる。 ・友達を「〜君」と呼ばせるようにする。

③●日常生活における実践

月	よ う す	手 だ て
4月	・無意味なコマニッカル文句等はよく目にするが、自発語は「ちようどい」「おはよう」等のある定まったものである。そのため要求がうまく人に伝えられずパニックをよく起こす。	・H児の思いを代弁したり真似て言わせてやる。
7月	・人の言葉をよく聞くようになり、それを真似て言うようになる。	・クラスの音楽会や歌のおおい環境を作る。
2月	・自分で「ぼくは～します」というとすぐに動作にとりかかれる。 ・歌をよく口ずさむようになる。 ・「～を下さい」「トイレです」「かゆい」とつけて、等要求語が増え、パニックの回数が減少する。 ・場に応じた言葉が増える。	・繰り返しの指導を大切にする。 ・一定の会話のパターンを定着させるとともに、日常生活の中でH児への話しかけの言葉をどんどん増やす。 ・絵本の読み聞かせをする。

●視写における取り組み

月	よ う す	手 だ て
4月	・なぞり書きでひらがなが書け、ほとんど正確に読めるが少しでも点線からはみ出すとパニックを起こし、集中できなくなる。	・生活の色々な場面で模倣を意識させる。 ・毎日の宿題に、生活単元学習に即した歌や言葉を繰り返し、繰り返しの中でなぞり書きから視写へと移行させる。
11月	・手を軽く添える補助があればかなり集中して視写していく。 ・自分の名前が補助を必要としない。	・手を軽く添える補助を徐々に少なくしていく。 ・自信がつくまで繰り返し練習させる。
2月	・補助がなくても一人で視写できる。 ・よく似た文字は間違えやすいが、自信を持ってかつよくかける。	・間違えやすい文字を繰り返し単語や文の中で練習させる。 ・視写した文を声を出して読ませる。

4、考察と課題

4月当初のH児に比べ笑顔が多く見られるようになり、パニックの回数も減少した。が、意味のある自発語は特定のもの以外はまだまだ少なく、問いかけに対してはオウム返しが多くなる。

また、集中して取り組む姿勢、友達との輪の中に入っていく、友達との葛藤場面（とられた玩具をとり返そうとする等）もところどころ見られるようになり、集団というものを意識するようになってきたが、自分の要求がうまく伝わらない思い通りにならない時等パニックを起こす。自分の要求を人に伝えるための言語獲得とたくましい心、自立心を育てることが今後の課題である。

(大西都子)